城踏 SHIRO FUMI

姫路市立城郭研究室ニュース「城踏」No.39　2002年8月１日
編集・発行；姫路市立城郭研究室
〒670-0012　姫路市本町68-258　日本城郭研究ｾﾝﾀｰ内
TEL　0792-89-4877　FAX　0792-89-4890
URL　http://www.city.himeji.hyogo.jp/jyokakuken/

えきまえじょうかく

JR水戸線・宍戸駅

茨城県友部町

▲宍戸陣屋土塁（左図の○）

宍戸陣屋（ししどじんや）

茨城県のほぼ中央に位置する友部町に宍戸陣屋跡はあります。友部駅で水戸線に乗り換えて一つ目が宍戸。駅もかつての城内にあるそうですが、現況からでは想像できない景観です。駅から南が陣屋の中心部で、新道が陣屋町の中央を縦断しています。

陣屋の遺構は、駅から新道を200mほど南に行くと、陣屋の土塁の一部が残っています（上写真）。陣屋の北土塁の一部で、土塁上には稲荷社が鎮座しています。開発の波が押し寄せないようなのどかな場所ですが、陣屋町としての遺構はほとんどありません。旧町の街路さえなかなか辿ることができないような景観となっています。いまでは業務委託された寂しい駅と更地の目立つ駅前一帯ですが、常磐線が水戸まで開通するまでは陸上交通の要衝として繁栄していた時期があるとのことで、その時期に旧陣屋町が改変を受けたであろうことは想像に難くありません。

さて、宍戸陣屋にはもともと宍戸氏の城郭があったと言われており、慶長７年（1602）佐竹氏の出羽移封に伴い宍戸氏も当地を去りました。そしてかわって、秋田実季が５万石で宍戸に入ります。秋田氏が正保２年（1645）、陸奥三春へ移ると幕領となり、天和２年（1682）徳川光圀の弟松平頼雄が１万石で立藩することになり、以後幕末まで松平氏が治めてきました（資料館の展示より）。

現在の遺構は松平氏時代のもので、秋田氏時代について詳細は不明ですが、松平時代よりは規模が大きかったことが予想されます。上図の陣屋跡（方形区画のところ）が、秋田時代の本丸と想定されています。そうだとすると、秋田氏の本丸を中心にして、それを縮小したのが松平氏の陣屋ということになります。

旧陣屋町の東に接して「古館」という地名が残っています。舌状に張り出した丘陵の西端にあたります。宍戸氏時代の城は「古館」にあったのかもしれません。

なお、上図は陣屋の中心部を示したものであり、陣屋町としては南北にもっと広がっていたと想定されています。

◆天神堀跡。

陣屋の西に位置し、北から南を見たところ。現況ではよくわからいが、ちょうど家屋の建てられていない南北のベルトになっている。また数軒ばかり家屋がベルト上にのっているが、どれも借家であった。堀や池の跡にはあまり家は建てたくない。

◆残存する土塁。

民家の敷地に挟まれているため、接近不可能。陣屋の東南隅に当たり、折れ構造になっていたらしい。手前の畑は土塁を切り崩した跡らしい。その右手の家屋は畑より一段低くなり、畑と屋敷地の境目には里芋が生えている。堀跡だろう。

◆「古館」から見た陣屋跡方向。

↓付近が前ページの土塁。
撮影位置は「古館」という地名の場所で、旧陣屋町よりも地形的には若干高くなっている。資料館の展示によると、写真中央の田んぼ全体が堀となっていたらしい。湿地あるいは池のような水域が広がり、堀の役割を果たしていたのだろう。
「古館」地区は、現在は一部畑などもあるが、住宅が建ち並んでいる。

宍戸駅から南に500ｍほどの場所に友部町歴史民俗資料館があります。宍戸陣屋に関する史料展示はあまり多くありませんが、民具、宍戸焼、戦時資料などは多く展示されています。旧宍戸町役場の建物なので冷房はありませんので、真夏の見学はお勧めできませんが、古い建物なので自然の風の涼しさは体感できます。歴代の宍戸町長肖像画展示室で個性的な故人の顔に囲まれると、涼しさが増すかもしれません。また、この町にはかつて海軍航空隊がありました。そのつながりで、海軍姫路航空隊飛行場跡の空撮写真が１枚だけ展示してあります。